

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihamanagavama/>

卒業生は巣立ち、私たちは…

校長 佐藤 信雄

3月19日（水）、99名の卒業生が多摩永山中学から立派に羽ばたいていきました。嬉しいことですが、寂しくもあります。残った私たちは、卒業生から受け継いだ大切なことを胸に、4月に来る新入生とともに、この学校を新たに作り上げていきましょう。今回は、卒業式でお話し申し上げた校長式辞を、抜粋して載せます。そのうえで、私たちが何をすべきかについて、触れてみます。

梅の花もそろそろ盛りを過ぎ、ソメイヨシノのつぼみがいっそう膨らんで、春を実感できる日が増えてまいりました。雑木林の枝にも小さな春の芽吹きを見ることができます。（中略）

ご来賓の皆様、保護者の皆様、重ね重ね高い所から恐縮ではありますが、本日巣立っていく卒業生を、これからも応援してあげてください。明日の多摩市、明日の日本と世界を担う若者たちに、どうか引き続き、熱いエールをお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。改めて、ご卒業おめでとうございます。つい半年前には、残暑の厳しい奈良公園や京都の町を皆さんと回っていたのに、ほんの三ヵ月前は入試面接の練習をしていたのに。受験生生活はいつ終わるのだろう？ と途方に暮れたことのある人も、おいでではないでしょうか。本当に、時というものは、すぎてしまえば早いものです。

正直な話をします。私は、皆さんが好きです。にぎやかな人、動き回る人、落ち着いている人、もの静かな人、ノリのよい人と、色々な個性が見て取れます。その一つ一つが、いい。実にいい。そんなあなたの方を見ると、幸せになってほしいなあと思わずにはいられなくなれます。私は、皆さんには、どうか幸せになってほしいのです。

そのために、一つは、愛を大切にしてください。愛というと、異性との恋愛を思い浮かべる人もいるでしょう。けれど愛は様々です。家族を愛する家族愛、仲間を愛する同士の愛、ふるさとの多摩市、そして東京を愛する郷土愛。信仰をもつ人が感じる神の愛アガベ。愛はすべての源であり、私たちが機械ではなく人間であることのあかしです。恋愛だって異性の間のものとは限らない時代です。どうすればあなたの愛を伝えられるか、お互いの間に愛を育めるか。その方法をいろいろと考え、実践してください。

二つ目は平和です。恵泉女学園大学平和紙芝居研究会KPKAの紙芝居を皆さんはご覧になり、上演を体験しました。平和は、私たちの連帯と不断の努力があって初めて維持されます。お互いを慈しみ、助け合う心をもって、隣り合った人や世界の国々と関係を深めたいですね。これからの生活で、人間関係から傷つくこともあると思います。しかしその傷をいやしてくれるのもまた人間です。誰も不幸にならない関係、社会を平和というなら、どうか一緒に、平和を追求していきましょう。

三つ目は自由です。私たちの祖先が、長い時間をかけて勝ち取ってきた自由を、私たちは思う存分味わうだけではなく、誰にでも、そしていつまでも、その自由がもたらされるように取り組んでいかねばなりません。たとえだれであれ、罪なく魂を檻に入れられてはなりません。そして自由は行使しないといずれ狭まります。自分にとっての、私たちにとっての、人類にとっての「自由」とは何か？ 共に考えて取り組んでいきましょう。

本当はもっと、君たちと長いこと一緒にいたいのです。でもこれは、これからも皆さんを支えるご家庭の皆様や、いずれ出会う人も含めた、皆さんの仲間やパートナーの役割なのでしょう。卒業の悲しみと淋しさの次には、新しい出会いと喜びが、皆さんを待っています。

皆さんと同じ時代に生きられたこと、同じ学校で出会えたことを、皆さんと神に感謝します。みなさんのこれらの毎日が、愛と、平和と、自由に満ちていますように。さようなら。そして、ごきげんよう。

ラブ&ピース&フリーダム！（令和6年度多摩市立多摩永山中学校第28回卒業式 校長式辞から抜粋）

巣立っていった卒業生のために、これから入学してくる新入生のために、そして何より自分たちのために、私たちは多摩永山中学校での3年間という限られた時間を、充実させていかなければなりません。一人ずつで、そしてみんなで、自分とみんなの成長を願いながら、取り組んでいきましょう。

たまなが生の大活躍！

敬称略

○**体育優良生徒表彰** 学業全般に優れ、特に保健体育の成績、活動が顕著な生徒に贈られます。

明田 悠弥（3年） 宮迫 結藍（3年） 、

○**東京都産業教育振興会表彰** 学業全般に優れ、特に技術家庭や美術で活躍した生徒に贈られます。

大藺 漣（3年） 宮澤 凛（3年）

○**第64回東京都中学校書き初め紙上展**

金賞 明田 悠弥（3年） 鈴木 和生（3年） 大藺 漣（3年）
安部 匠（2年） 古田 柚羽（2年） 山本 心優（2年）
伊野 真幹（1年） 竹田 春望水（1年） 坂東 久里子（1年）

○**男子バスケットボール部**

多摩市中学校春季バスケットボール大会 **優勝**

優秀選手賞 松沼 龍希（1年） 丸山 真知（1年）

○**女子バスケットボール部**

多摩市中学校春季バスケットボール大会 **準優勝**

優秀選手賞 吉本 真綾（1年）



薬物乱用防止教室が開かれました

3月12日（水）、3年生を対象とした薬物乱用防止教室が開かれました。今年も講師として、特定非営利活動法人八王子ダルクの生活支援員を勤めていらっしゃる木村智洋さんに講師としておいでいただきました。

ダルクとは、薬物等の依存症から回復を目指す民間のリハビリ施設です。依存症の快復と社会復帰を支援しています。木村さんはご自身も薬物に依存し、ダルクで快復されたご経験があり、現在はそこから依存症に苦しむ方の快復と社会復帰の支援をなさっておられます。またその傍ら、学校等で薬物乱用防止教室の講演活動を行い、薬物乱用防止の啓発をなさっています。

木村さんは、「素直さ」「誠実さ」「仲間」が依存症からの快復に、そして依存症にならないためには大切だとお話してくださいました。体験談をもとにしながら明るく、理解しやすい豊かなお話でした。依存のことをアディクションと呼びますが、回復にはコネクション（人間関係、絆）が有効であることも知ることができました。

3年生は4月から上級学校に進学し、自由が高まる分誘惑も多くなります。危険な薬物に手を出さないと同時に、薬物依存とその快復の途中にいる方を正しく理解し、差別なく共生できる資質を養えるよい機会となりました。



木村さんのお話を真剣に聞きます

保健体育・ダンス発表会

3月10日（月）、1年生、2年生それぞれ、保健体育の授業で取り組んだダンスの発表会が開催されました。班ごとに振り付けを創作し、最後は全体で踊るという見事な演出もありました。

ダンスを習い事としている生徒も増えているように、昔に比べてダンスは私たちにとってより身近なものとなってきています。「音楽は国境を越える言葉」と言われますが、「ダンスは国境を越える感動」になるもののようです。来年度の運動会でも披露される生徒の皆さんのダンスに、どうぞご期待ください。そして1、2年生の生徒の皆さん、良いダンスをありがとうございました。



動画でお見せできず残念です



保護者の方々もおいでになりました

さようなら卒業生

3月19日（水）朝から春の雪が舞う中、第28回卒業式が厳かに、そしてあたたかく挙行され、99名の卒業生がみずみずしく巣立っていきました。その卒業生同様に、在校生の卒業式に臨む態度も実に立派でした。卒業生を見送った在校生の皆さんは、きっと

1年後、2年後に、先輩のように立派に巣立っていくことでしょう。大切な時にしっかりとした行動ができる生徒の皆さんは、私たち多摩永山中学校の誇りであり、財産です。このことに改めて気づかされた卒業式でした。



多目的ホールで別れを惜しむ



歓送に応える卒業生の姿